

Efficacy of peroral endoscopic myotomy (POEM) in the treatment of achalasia : a systematic review and meta-analysis

Talukdar R, Inoue H, Reddy DN

Surg Endosc 29 : 3030-3046, 2015

背景：アカラシアに対する peroral endoscopic myotomy (POEM) は画期的な治療手段のひとつである。本研究の目的は、アカラシアに対する治療として、laparoscopic Heller's myotomy (LHM) と比較した POEM の治療効果を明らかにすることである。

対象と方法：アカラシアに対する POEM の論文 19 編を用いて、システマティックレビューとメタアナリシスを行った。Eckhart's score と lower esophageal sphincter (LES) 圧の低下を主な評価項目とした。

結果：29 編の論文において 1,045 症例に対して POEM が施行された。5 編の論文において、POEM を施行した 90 症例と LHM を施行した 160 症例の比較を行った。19 編が Eckhart's score の、14 編が LES 圧の評価を行っていた。effect size はそれぞれ Eckhart's score で -7.95 ($p < 0.0001$)、LES 圧で -7.28 ($p < 0.0001$) と両方で有意な治療効果を認めた。一方で Eckhart's score ($p < 0.0001$) と LES 圧 ($p < 0.0001$) のそれぞれの論文間で有意な異質性を認めた。POEM と LHM の比較において、Eckhart's score の低下、術後の疼痛スコア、鎮痛剤の使用量、在院日数、有害事象、胃食道逆流症状、逆流性食道炎について両者に有意差はなかった。手術時間は POEM で有意に短かった。

結論：アカラシアに対する POEM は有効で、LHM と同等の治療効果を認めた。今後は、アカ

ラシア初回治療症例や他の治療法が無効であった症例について、多施設共同無作為試験を行い POEM の有効性と安全性を示す必要がある。

【コメント】 アカラシアは希少疾患であるものの、現時点で有効な薬物治療などが存在しないため、LHM または POEM で LES を切開することが唯一、通過障害を安定的に改善させる治療となっている。POEM は昭和大学江東豊洲病院消化器センターの井上晴洋教授により開発され、低侵襲で有効な治療手段としてまたたく間に世界中に広がった。ただし現時点で本邦では、LHM は保険診療として認可されているのに対し、POEM は一部の施設での高度先進医療との取扱いがなされている。本論文は、アカラシアに対する治療として POEM と LHM を比較したシステマティックレビューおよびメタアナリシスであり、POEM は LHM と同等の治療効果を示した。しかし、引用された論文の POEM の施行症例数は、多くが 50 例以下（分布：5～234 例）の少数例の検討であるとともに、ほとんどが観察期間 1 年未満の短期治療成績である。治療成績の評価項目として、症状の改善が最も重要であることに間違いはないが、近い将来には High Resolution Manometry や食道インピーダンス-pH 検査などの最新の客観的な食道機能検査を駆使して、より長期の有効性が証明されることを期待したい。

片田夏也（東邦大学医療センター大橋病院外科）